

## FLORA of KOCHI

No. 39

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

## 探してみよう！ 秋編

## ヤマホロシ (ナス科)

*Solanum japonense* Nakai

ヤマホロシはナス科ナス属の多年生草本で、高知県では絶滅危惧種に指定されています。日本に自生するナス属は9種で、ほかに21種の外来種が確認されています(米倉 2017)。高知県においても半数以上の6種が外来種です(小林 2009, メジロホオズキをナス属から除く)。ヤマホロシは夏の終わり頃から紫色の花を咲かせ、秋に赤い果実をつけます。ややつる状になる茎をもち、葉が深く切れ込むといった特徴があり、茎がつる性で葉が全縁のマルバノホロシと区別できます。山地の明るい環境のところにみられます。

## 【参考文献】

米倉浩司(2017) ナス科ナス属. 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編). 改訂新版日本の野生植物 5. pp. 40-45. 平凡社. 東京.  
小林史郎(2009) ナス科ナス属. 高知県・財団法人高知県牧野記念財団(編). 高知県植物誌. pp. 434-436. 高知.



ヤマホロシ (2011年8月31日 香美市)

## 高知県の在来ナス属及び類似種の区別点

和名	学名	茎	花色	萼片の数	生育型	果実の色	茎の毛	葉の形
ヤマホロシ	<i>Solanum japonense</i> Nakai	つる状	薄紫色	5	多年	赤	無毛	基部が浅い心形〜円形〜切形。ときに下部の葉は3〜5片に深く裂ける。
マルバノホロシ	<i>Solanum maximowiczii</i> Koidz.						無毛	全縁
ヒヨドリジョウゴ	<i>Solanum lyratum</i> Thunb.						密に腺毛	基部が心形。下部の葉は深く朝顔形に1〜2裂して大小不同の3〜5片に裂ける。
イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i> L.	直立	白色	10	一年	黒	無毛か疎らな短毛	基部が円形または広くさび形。広卵形。先は鋭いか短く尖る。全縁が波状の鋸歯。
メジロホオズキ	<i>Lycianthes biflora</i> (Lour.) Bitter						軟毛やや密	全縁

## ほとんど毛のないシロヨメナ (キク科)

*Aster ageratoides* Turcz. var. *ageratoides*

これからの季節、道路脇で見かける「シロヨメナ」。キク科シオン属の多年生草本です。高知県植物誌では「シロヨメナ」としましたが(藤川 2009)、最近の図鑑では、シロヨメナは葉の表面はほぼ無毛、またはまばらな短毛があるもので、茎と葉の裏に短毛が多いものは変種ケシロヨメナ var. *intermedius* として区別されています(いがり 2007, 副島 2017)。県内で見かける「シロヨメナ」は、ほとんどが毛のある個体で、毛のない個体は、旧土佐山村、笹ヶ峰、野鹿池山、大座礼山、岩黒山、宿毛市荒瀬山で採集されているだけです。毛のほとんどないシロヨメナは葉がややぺらっとした感じに見えます。そんな個体を見かけたら、毛があるかどうか触って確認してみてください。



シロヨメナの花(2009年9月16日 いの町)

## 【参考文献】

いがりまさし(2007) シロヨメナ, ケシロヨメナ. 山溪ハンディ図鑑 11. 日本の野菊. pp. 124-126, p. 132. 山と溪谷社. 東京.  
副島頸子(2017) キク科シオン属. 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編). 改訂新版日本の野生植物 5. p. 319. 平凡社. 東京.  
藤川和美(2009) キク科シオン属. 高知県・財団法人高知県牧野記念財団(編). 高知県植物誌. pp. 471-472. 高知.



# 高知県の植物 ニュース

## ■ ノハラテンツキを皿ヶ峰で再発見

文・写真：坂本彰・石川慎吾

ノハラテンツキ *Fimbristylis pierotii* Miq. はカヤツリグサ科テンツキ属の多年草で、ノテンツキ *F. complanata* (Retz.) Link に似ていますが、三角形の鱗片に覆われた根茎が良く発達して横に這うという特徴を持っています。本州西部から琉球の山中草地にややまれに生え、環境省レッドリスト(2014)では絶滅危惧II類(VU)に指定され、山口県、佐賀県、宮崎県での分布が確認されています。本県では1943年(昭和18年)に森岡龍氏によって、高知市一宮で採集された標本が国立科学博物館に収蔵されているのみで、高知県レッドリスト(植物編)2010年改訂版では「絶滅(EX)」とされていました。

今回ノハラテンツキが採集された皿ヶ峰では、今年の3月に10数年ぶりという大規模な山火事がありました。筆者らはこの山火事によって草原生の植物が復活するのではないかと考え、火事後頻繁に調査に出向

いていました。その調査の過程で、テンツキ属と思われる植物を採集しました。果実の形態的特徴から、ノハラテンツキの可能性が高いと考えられましたが、最初の採集品は根茎全体を採集していませんでしたので、確定できませんでした。そのため改めて根茎全体を丁寧に採集し、根茎の特徴からノハラテンツキであることを確認しました(写真1-1)。併せて、生育状況、個体数の確認調査を行いました。生育地全体では、大小規模の違いはあるものの18の集団があり、花序をつけた株がおおよそ660株確認されました。

生育地は頂上から少し下った南斜面で、風化したチャートの小礫・中礫が卓越して、土壌が薄くて乾燥しやすい場所です(写真1-2)。この斜面の植生の状況は、少なくとも2002年以降ほとんど変化がなく、ネザサの優占度や草丈も増加していません。本種の主な絶滅要因は、植生遷移であると考えられていますので、土壌が薄くて乾燥しやすい立地条件が幸いして生き残ることができたと思われます。

皿ヶ峰は草原生植物の生育場所として知られており、これまでも植物観察会や調査が行われてきています。そうした中で長年ノハラテンツキが確認されてこなかったのは、観察者の見落としや他種であるとの誤認が重なった結果であると推察されます。足元の自然を改めて見直してみる必要を痛感させられた再発見でした。



写真1-1 ノハラテンツキ (採集日：2017年6月9日)



写真1-2 生育地の様子 (2017年6月17日)

### 【参考文献】

勝山輝男(2016)カヤツリグサ科テンツキ属. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩二(編). 改訂版日本の野生植物 1. pp.346-350. 平凡社. 東京.  
環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編(2015)レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅の恐れのある野生生物 - 8 植物 I (維管束植物). 646pp. ぎょうせい, 東京.  
山中二男・秋沢治代・鍵本純子(1977)四国南部暖温帯のススキ型草原の一例. 高知大学教育学部研究報告第3部 29: 15-21

## ■ 外来植物調査経過報告 ～特定外来生物オオハングソウ駆除大作戦～

文：藤川 和美・田邊由紀

写真：田邊由紀

生物多様性を脅かす要因の一つとなっている外来生物。高知県での外来植物の市町村別分布リストを作り、注意の必要な種をリストアップするため、調査活動を実施しています。これまでに、のべ1,127人の調査ボランティアの皆さんにより、3,593データ（標本・写真情報）が集まり（平成29年8月現在）、着々と県内の外来植物の生育・分布状況が明らかになってきています。本調査が開始されてから、ナガバハッカ、ワタゲツルハナグルマなどを含む35種の県新産外来種が確認されました。このうち園芸植物が逃げだしたものと考えられる種類が22種あり、それらについては定着しているかどうか継続調査が必要です。

外来生物への対応方法は、（1）定着前では①入れない、②捨てない、③拡げないの予防3原則を守ること、（2）定着後は①除去、または②防除することです。しかし、すでに面的に拡がって定着しているセイタカアワダチソウのような種を除去することは、物理的に困難であることは明らか。そうならないようにするには、早期の発見と対策が必要です。また、生きものを守るために生きものを駆除することに理解を得ることや、外来生物の予防3原則を普及啓発することも重要です。外来生物法によって特定外来生物が指定され、それらの種の販売や栽培が法律で禁止されてはいても、一般には浸透していないように思われます。

特定外来生物のうち、県内では1カ所のみで確認されている種があります。津野町天狗ノ池にあるオオハングソウです。本種は、2005年に津野町の町役場横山好史氏（現津野町臨時職員）が確認して除去に取り組んだものの、その旺盛な繁殖力のため途中で断念したとのこと。そこで、高知県・津野町・牧野植物園で一斉駆除を計画し、調査ボランティアの皆さんに協力を呼びかけ、8月25日、9月14日の計2回、駆除活動を実施しました（写真2-1）。本種は



写真 2-2 駆除前の様子（2017年8月25日）

地下部がわずか2.4g残るだけで再生し、種子は土壌中で数年生き残ることから（大澤・赤坂2009）、種子を落とさないよう頭花がついた茎上部を刈り取り、地下部を丁寧に堀りあげました。のべ34名、皆さんのご協力によって、お花畑だった生育地（写真2-2. 知らなければ美しい）の開花個体を、ほぼ除去することができました（写真2-3）。しかし、地下部を全て取り除いたとはいえ、埋土種子もまだ残っています。

外来種の完全な駆除のためには、根気よく長期にわたる継続した活動が必要です。引き続き皆様の調査と駆除活動へのご協力をお願い申し上げます。

### 【参加ボランティアの方々:50音順(敬称略)】

青木佳子, 大石泰資, 小笠原彰子, 栗原妙子, 黒瀬修平, 佐々木英男, 佐々木康子, 下村憲一郎, 下村公水, 中平勝也, 萩野鈴子, 萩野善久, 細川公子  
誠にありがとうございました。

### 【引用文献】

大澤剛士・赤坂宗光(2009)簡易版特定外来生物オオハングソウ駆除マニュアル .6pp.  
(<http://osawa.nomaki.jp/index.html>, 2017年8月10日閲覧)



写真 2-1 駆除活動の様子（2017年9月14日 津野町）



写真 2-3 駆除後の様子（2016年9月14日）

# information

## ■ 平成 29 年度 分類学セミナーのお知らせ

平成 29 年度最後の分類学セミナーは下記予定で開催します。植物分類学の初心者歓迎!お友達やご家族など、お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

**シソ科** 講師：瀬尾明弘

**10月21日 (土)**

場所：本館アトリエ実習室

時間：10:00~12:00

定員：30名

お申込は、下記まで。

- ① メール：瀬尾 (akiseo@makino.or.jp)  
田邊 (kurahashi@makino.or.jp)
- ② 電話番号：088-882-2673 (標本庫直通)
- ③ FAX 番号：088-882-8635 (代表)

※セミナー直前に詳細をご案内しますので、必ず連絡先をお知らせ下さい。

※セミナーのみご参加頂く場合は、入園料無料です。

## ■ 平成 30 年度 分類学セミナー予定

平成 30 年度の分類学セミナーは、当園の研究員堀清鷹がイタチシダの仲間について解説するほか、外来種、イネ科、カヤツリグサ科、ラン科などを企画しています。内容、日程など詳細は、次号でお知らせ致します。ご期待下さい。

## ■ 平成29 年度 植物園秋のイベント

### ★ガイドウィーク・園内の植物解説

(職員と一緒に植物園を散策)

10月28日(土)・29日(日)

11月3日(金・祝)・4日(土)・5日(日)・11日(土)・12日(日) 時

間：10:30～、13:30～

定員：各回 20 名

集合場所：本館ウッドデッキ

※予約不要

※解説員によって散策する場所が変わります

### ★いがりまさし・ネイチャーミュージック

(リコーダーやギターによる野外演奏)

10月14日(土)・15日(日)・16日(月)

時間：11:00～、13:00～、15:00～

場所：南園 50 周年記念庭園特設ステージ

(雨天時本館ウッドデッキ)

※チケット、予約不要

## ■ 外来植物調査に関する問い合わせ

外来植物調査が始まって半年が経過し、情報も集まってきました。外来植物調査の仕方や調査票の記入方法、野外での植物採集や標本作製の方法などで分からないことがございましたら、下記担当までご連絡下さい。また、調査方法などについて、皆さまのご意見・ご提案もお待ちしております。

調査に参加してみたいと思われる方、お声を掛けてください。一緒に野外へ出かけましょう!

これからの季節、職員が野外調査にでかけることが多くなりますが、毎週火曜日(休日の場合はその翌日)9:00~17:00 に担当職員がお問い合わせに対応します。標本のお持ち込みによる受取はこれまで通りです。

外来植物調査窓口：田邊、川谷  
〒781-8125 高知県高知市五台山 4200-6  
Tel: 088-882-2673 (標本庫直通)

Fax: 088-882-8635

e-mail: gairai\_kochi@makino.or.jp(外来植物調査専用)

## ■ そのほかの植物に関する問い合わせ

毎週火曜日(休日の場合はその翌日)に植物研究課の田邊、前田、橋本(季)が高知県の植物のお問い合わせに対応しています。写真では同定できない種類がありますので、押し葉状態(仮押しでも結構です)にしたものをお持ちいただくか、お送り下さい。

植物に関する全般のお問い合わせは、月・水・金の16時から17時まで、教育普及課の職員がお答えします(Tel:088-882-2723)。

## ■ 編集後記

本号では高知県で絶滅したと考えられていたノハラテンツキについて、坂本彰さんと石川先生にご執筆、写真提供頂きました。誠にありがとうございました。また津野町でおこなった外来植物の駆除活動について報告致しました。

皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

No.39の発行担当：前田綾子・藤川和美・田邊由紀・橋本季正

★原稿募集中! 高知県の植物に関するニュース、トピックお待ちしております。